（大正十四年十二月一日第三種郵便物認可）　昭和四年三月二十五日　THE TAIRASHIMPO

平新報

發行日 每月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰 一行一回五十錢 場所指定倍增
一部定價金十錢送料五厘

再び肺結核の豫防に付て〔四〕

湯本町 片岡鎌三郎

肺結核病は早期に診斷し、却火にならぬ前、一桶の水能く消し得る時こそ、眞に肺結核は治癒するのである昔の書に人爲の最善を盡す、百人中只一人救ひ得るのみと云つたが現代醫學の知識から、結核は治癒し易い病氣であると、之れは誇言でない、正眞正銘である、只其れには限界(數居がある、醫者の手に來る頃は多く病勢進んで、組織を破潰しつゝある、如何にも手の付け樣なき者が多い故患家の無理解から徒らに恐怖して、自ら進んで却火に飛び込む悲惨事を仕出かす結果となる、だから繰返して云ふ、結核は毫も恐るべき病ではない、只其の病毒が深く喰ひ込まぬ時に、十二分に警戒治療す可きである、「コルテット氏は時を得るは、病氣の全般を支配するものだと、眞に味識す可き言である。

ベール氏は定型的病變を成しない、所云結核前楷梯期に於てこそ、眞に徹底した治療が出來ると、肺病が進行して、臨床上著明な成熟期に及んだものは、只治癒し得べきであると云ひ得る程度で、甚だ治癒し易いとは斷言出來ぬとは現今醫學の定說である。

たか、單に龜裂に過ぎない什器なら、簡單な加工で用に堪へる程度の時、修理するが肝要である、破潰甚だしき時は其の場所と程度によりては、殆ど用に立たぬよし用に堪へるとしても常に細心の注意を要するは質に略易い道理である、慢性肺病では、輕快略治の狀態に達したからとて中々安心は出來ぬ、不斷治病教則を嚴守せねばならぬ、即ち自已を保護し他を顧みて、壽命を全ふしなくてはならぬ造次顚沛も自已缺陷を自覺し、輕界盲動は禁斷であります、慢性肺病は治癒したと云つても、破壞された組織の欠損は償はれない、不具者であるを自覺しなくてはならぬ、之に反し初期結核は、適當に治病し治癒したならば、眞に殆ど完全治癒である。

結核の發病原因は元より結核菌だが、發病の動機は身体の疲勞、抵抗が弱つた時だから、家庭の不和、生活難、青年男女の學課過重、煩悶苦慮、憂悲苦惱の持續病後の衰弱、假令腸チフス後、百日咳麻疹、殊に麻疹は小兒病だが、非常に身体を衰弱せしむる病氣だ、ハシカ十二日捨て置てもなほると云ひ傳ひられて、氣にとめない者が多い、之れは眞に誤つた考へだ、百日咳もそうだ、近時百日咳は日光浴が安價で、最も効がある、人工太陽光線も有効である、夫れから姙娠分娩、黴毒や過勞、荒淫亂酒、例へば放蕩青年が改心した丁度其頃から肺病が起つ、た夫れは他から傳染し（相手の女から）だ等の話はかなりあるが、夫れは傳染したからでなく、亂酒亂淫中自然自已の抵抗が減弱したからだ、嫁入して家內不和や家計上の苦痛等に可愛相な若いお嫁さんが肺病になつた、けれども實家にも嫁入り先にも、肺病系統は無いと云ふ樣な例は澤山ある。必意夫れは身心過勞が元で抵抗力減弱した結果である即時機到れりと結核菌が擡頭し、爆發の機會を作らしたからである、大に心す可き事柄である。

動中靜觀

本紙前號『動中靜觀』中に東北日々新聞とかいふこの頃生れた夕刊が何か不服の点あると見え『敢へ申す』等と大上段にかまいて珍甕漢の事を書いて本紙の棚下しをやつて居つた樣だ、時事問　中平館のニユースを例に上げたからであらふ、そは同社の發行人は平館の主任辯士石井君がなつて居るらしく勿論十六日夕石井君の訪問をうけたがあんなヒヤカしや攻擊をうける話しではなかつたそうするど例の記事は横山君かも知れぬ、横山君とするど卑怯にも高月發生とか、山野邊某等とものする男ではないだらふから他のものか知らぬが筆致が横山君らしい、H刊不た夕刊の悪口と同君に見た樣だが惡口でも何でもない讀者の一人としての希望である、何もくどく例を上げて說明するまでもあるまい、例を上ぐれば今朝『いはらきの磐城版』に出た記事が今夕『日附は翌朝だらふが』配達される在平夕刊新聞に同じ記事が一言一句かはらず出で居ると言ふのだこれで何が同じ活動であるか、電話記事があるとしても今夕の在平夕刊に出で明朝の磐城版に出て居るのならそれは同じ活動とも言ひ得るその間判らぬ横山君でもあるまい兎に角他地方版に負けず例の如く龍頭蛇尾とならず、みつしり迅速に清新な記事を見せて貰ひたい

それが在平夕刊三社の存在の所へ生れた北日の生れ替ひもあるといふもの横山君如何です、『平館ニユースに時事問題を載せてなかつたとは言ひ得まいから、他人の頭とか、幼稚とかと攻擊する前に手前の編輯振りと文章を顧み今少し夕刊らしい新聞を出し給へ、旬刊は旬刊としての立場がある。平常默するも問題生せば斷々乎とし全紙面を以つて巨彈を投ずるの準備と意氣とを持して居る君等の目から見た樣な前號の町議記事には一言も解れず難じて居る所、やはり攻擊すべくかいたもので何等『敢へ申す』等との好意的、教示的な字句はなくママに卑劣な字句を並べた該文には首肯得ないがほめられゝよはクサされにがクスグッたくないから良いとしも此な人大勢高く止つてクだらなき事を書いて挑戰ズキな男ではある哉！本紙は元來磐中紹介に引いて同窓生の音信交換を以つてなすに力める事は故楠竹先生の提言によつてなして居る事、これが本紙の立場であり特徵である紅筆も題號に因んで平の新田町報を出して居る心算で報じて居るのだ誰が何と言ふてもかく事は止めぬ、讀みたくない者は讀まぬ事だ、然しどうしても讀まなければならぬ樣に筆を進めるからその折は騷ぐべからずと今より斷つて置く事然り

寄稿歡迎

産婆看護婦 生徒募集
願書四月八日迄（可成至急）
修業年限 産婆看護婦科ヲ通ジ一ケ年
平一丁目
石城産科婦看護婦學校
電話三五七番

生徒募集「募集人員」
本科第一部　二ケ年卒業　五十名
全科第二部　三ケ年卒業　五十名
技藝高等科　二ケ年卒業　五十名
全　專攻科　一ケ年卒業　三十名
願書受附三月末日迄、學則請求ノ方ハ郵券二錢封入ノコト
文部大臣認可
平陽女學校
平町 電話四四五番

生徒募集
◎婦人にも職業の必要な時代が參りました そして婦人に最もふさわしい職業は
産婆看護婦でしよう
一ケ年で卒業が出來、收益も多大で又家庭の一助ともなる産婆及看護學をお薦め致します
（入學無試驗）
平南町 平産婆看護婦學校
淸野きよ
電話三〇七番
◎申込期日四月八日迄

春衣大賣出し
春の催
◆スター好みの春衣モス若尺陳列
◆帶皮陳列◈銘仙陳列◈富士絹陳列
◈七彩友仙モス陳列
◉御進物に優美なる丸龜商品券
◉祝儀物萬端揃ひました
◉何でも間に合ふ不祝儀物は丸龜へ
亀 中野呉服店
平町三丁目 電話六十七番

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科〔專門〕
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

銘酒 由良乃助 特撰
（他の外來酒に比し絕對に遜色なし）
壹升瓶詰　一本　壹圓四拾錢（空瓶交換レッテル付）
壹斗樽詰　一本　拾貳圓（樽ヌキ）
『但從來の瓶詰價格並に空瓶交換の方法は從前の通り』
平町四丁目驛通り
永山酒造店總發賣元
電話二〇七番

本科　五十名
師範科　五十名
裁縫專修科　百名
專攻科　二十名
文部大臣認可
藤田女學校 生徒募集
詳細ハ本校宛學則請求「電話三二八」
願書受附 三月三十日マデ

磐城共濟病院組織
内科 小兒科（院長毎日診療）
院長 醫學博士 難波晄
副院長 醫學士 五十嵐雄一
内科部長 中西林蔵
外科 專門（内臓外科 整形外科 レントゲン科）
外科部長 醫學士 氏家憲八
毎日曜手術 醫學博士 鈴木[illegible]
産婦人科 女子泌尿科 レントゲン科
産婦人科部長 醫學士 [illegible]十嵐雄一
顧問 醫學博士 川添正道
×光線科
主任 醫學博士 難波晄
本院醫事法制囑託 法學士 岡薫
本院主事 賀澤忠治
御大典記念事業トシテ
一衛生試驗所（共濟病院內）
一病氣相談所（共濟病院內）
一救療所（共濟病院內）
磐城共濟會
平町 電話六四一番

新學期通學服
黑小倉 二圓二十錢ヨリ
上ヘル 四圓五十錢ヨリ
上サージ 四圓二十錢ヨリ
其他各種入荷
なかや洋服店
平 二、電話二〇三

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
平町四丁目
關內藥舖
藥劑師 關內榮助
電話四〇番

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二丁目 電話長三番

内科外科一般診療
片岡醫院
片岡鎌三郎
湯本町驛前

植田町
森合齒科
森合芳男

×光線科
平町南町 電話二二九番

内科、小兒科、皮膚科
[illegible]醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

植田町
片岡醫院
院長慈惠醫學士 片岡章
電話一〇七番

湯本 溫泉旅館 松柏館 電話長五番

平町鍛田町
高久病院
電話五三一番

磐城セメント特約販賣店
石綿製セメント
朝日煙突
サビナイ。ヤケナイ。クサラナイ
耐水、耐火、美麗。廉價

和洋銅鐵金物
久 釜屋商店
平町五丁目
電話九番 一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
◆良品廉賣に勝る商略なし 確實敏捷は久の生命なり

日本石油株式會社特約店
平町二丁目
油問屋 清關內油店
關內正一
電話 長十六番 八三九番
支店 郡山市驛前 電話三二八番
支店油槽所 茨城縣多賀郡本驛前 電話三七番平關

不思議な滋強靈液
まむしのエキス
本酒を用ひて適切に靈能の分る人々
養命酒は酒にして酒に非ず藥餌用として御婦人にも用ひ易く強力なる榮養素は惡疫を豫防し萬病を擊退する眞に健康の好伴侶なり榮養を貴ぶ人は勿論殊に
結核素質者○胃腸病○神經衰弱○精力減退○貧血性○不眠症○病後衰弱○婦人病ヒステリー○勉強は又激務に疲れ易き人○健康者朝夕の一杯元氣旺盛○學生其他慢性諸病に惱み醫藥に効なき方は論より證據先づ一瓶を試み其眞價を知り御愛飲あらん事を御薦めいたします
▼大瓶 五八〇 五入 金貳圓
▼中瓶 四〇〇 五入 金壹圓五拾錢
▲四季の御進物用又は病家の御見舞品として最も好適で御座います
平町五丁目
代理店 山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎

書籍文房具類の御用は
平町貳丁目
清水屋書店に
電話百參拾壹番

平町議改選を控へて各有志の所見を叩く（一）

味ふべき片言隻語

其間起否を判ずべし

佐藤岩次郎氏　私は推されば當落は眼中に置かず飽くまで理想選擧で出ます、這回もこの通り『張面を示して』百參拾余圓しかかゝらなかつたのです町議はあらゆる階級の人が出てゐる必要ありますね、辯護士もよからう、醫師も必要です、鎌田は民政黨が多いといふのかいや政友會が多いですよ。

岡田千藏氏　當鎌田は有權者約三百五十名あります、僕ですか僕は一人からだですから今十年程は出られません、雄辯の人として草野七五三之助氏適任者であるが出るかどうか、高田精一郎氏も良いですがあの人も子供が兵役をして居るからむつかしからう。佐藤氏今一回推さるゝかも知れんね、兎に角當町の票はどうも割かるゝので何とかせねばなりますまい、どうも公職につくものは、金と智識と暇と三點そろわんとね、ところこの三點そろうは尠く、加ひて好きでないとね、要は利權屋に引きずられて行く樣ではならぬ

山野邊義政氏　吉田五平氏は出るであらう。

大和田郡司氏　二町目は關内正一氏が出るのかね、僕の岳父丹野か、今度は出まいと思ふよ、まあ一町内一人だね、そうでないと苦戰ですよ、同業では大森氏また出るであらう、同業者は一人は出て居らんといかん、同業者は一致せんといふのか、それは醫師會そんな事で問題があると賴むんだが何職業でも商賣敵なんて一致せんものでね。

國府田直良氏　僕か暇がないよ、吉田由三郎氏を推したらどうだらう、吉田伴吉氏は當分出まいよ、それより櫻時だからあまり騷ぎ立ててかゝんで呉れだとやはり色街の元締だけあつてその業に忠實なものである。

比佐信太郎氏　今度は確かに出ます、と。

山崎清三氏　佐藤君も出まいし、僕は勿論出ない、神谷亥三雄氏適任者でかつても推したのだがなか〳〵承知せぬよ。

阿部政右衛門氏　僕は出ぬ『その出ぬが判らぬ』町議をやめるとすべてに樂ですね、實際其職にあるときは出張したい所にも明日町會があると行かれぬし、出張しても責任上用を足さむで歸らねばならず、此處十年許り沈默サ』だと。

佐々木龍若氏　さあどうなるかね、の一言多くを語らず、してどうも銀行がこの通りで御通夜の如く仕事がミ入らず君等が來て聲援して呉れぬと困る』と來て居るから皮肉な挨拶。

諸橋元三郎氏　町議でも何でも相當な年齡に達し自家業を心配にならず眞に町政に骨を折ることの得る境涯の人が出べきでせう

草野順平氏　うむ材木町は石山さんかね。

佐藤作平氏　こうすると思ひの外出んものだね、『本紙前號を手にして』うむ〳〵。

多田井笑次郎氏　隨分書いたね、『本紙前號を視て』

山野邊東次郎氏　僕の評は適評ですよ、『本紙前號の記事を指すのであらう

大和田與平氏　町議になんか打つて出たら隨分突つかれるから自分の境遇がちやんと無難の點に到達せんうちは多少弱點のある人は出るものでありませんよ辯護士の人達でも可能性『當選立候補か知らぬが』一人位しかあるまい。

瀧澤俊平氏　何票とつたら出られるかね、立候補者の數にもよるが『此處許滿更でもないらしい』

鈴木長三郎氏　四丁目は結局猪狩さんではないですかね、三丁目柏原幸次郎氏は出るか知れんね、何が何と申しても親戚の多く知巳のある人は勝ちですよ大した人物もいらんぢやないか、正直にやつて呉れる人であつたら、町會は討論會でないから人物よりも人格だよ。

永山勇吉氏　久保町は僕が出れば何んの事ないのだがそうは行かず一寸もめるだらう、要は自分から名乘りをあげる樣ぢや駄目だ、人に推されて出る樣でなければいかん。

山田盤麿氏　出る事が七分、それも友人の推擧もだし難しと云ふ處、併し昔かたぎの當年八十歲の老母や可弱い女房から、出ないでもらひ度いとの嘆願も、もだし難しとの兩板挾みのテイだが結局打つて出るものだらう。

關内正一氏　人物もしつかりしてゐる、いゝ意見も持つてゐる、青年紳商としては平町を代表する人物である、二丁目ではこぞつて氏を推す事は疑ひ無い、だが氏は年齡的に順序を考へてゐる。曰く我輩の先輩には柏原眞吾、三井文吉、山崎孝之助の諸先輩がある、之等諸氏を推すのが我輩の義務である、と關内氏らしい深味がある末頼母しい男とや云はん。

宇佐美友次郎氏　申告は何日前からでしたかね六拾日前と聞いて居りますがそうすると五月三十日だから來月一日から立候補して差し支ひないですね、と來て居る氏は出馬する事確實と見て良い。

春寒閑話

曰く曰くと其印象

中野甲藏氏　僕は三十一で町會に出だ、三十三で銀行の創立に着手したよこの中野の値價のあつたのは人の言ふ事をきかんでやつて行つた時だね、今は小供の教育に逐はれてる人間は寸前尺魔とかで先は判らんものだよ、人は棺を覆ふて初めて知るか呵々、讀書等も銀行へ出て來ては新聞もミダシ位なものやはり環境が靜かでないと纏つた本は讀めぬものだよ、山崎與三郎さんも銀行頭取だつたが故に隨分奉仕して居るものであらふ、平水道の折も山崎さんが一萬圓出したから私は百圓位でよいのだが銀行ちう立場から三千圓出しました、此の不況で株の配當がない許りで大した打擊です、故に第一家政からして私は切り詰めましたよ『兎に角中野氏は此の銀行の受難期に直面して閉鎖もせず、乘り初つて行く所は傑物に相違なく三十代で大した資力なく銀行を創立し經營して來た當りは常人の出來得る悉當でなく氏の大膽努力の强サは石城事業界の一異彩たるを失はぬ。

山崎清三氏　の談によると『平の新聞は新聞でなく私報である、××報であり××報であると丁度裏長屋の樣なものだ、これが地方の新聞で御座ると觀せる新聞がなく、各地方版の平の新聞のみならず大小によらず新聞は金が出ればほめるし出なければ惡口をかく、實際ホめられるとクスぐつたい氣がする、又世の中は結局は金のあるユダヤ人に制服されるだらう』と山崎氏はなか〳〵の理想家だ、金持あれば貧乏者もあるのだ、田舍新聞あれば大きい新聞もあるのだ、兎に角山崎清三といふ人は大資本主義の人かも知れる、新聞にさい大資本新聞を求めて居るから。

永倉清治郎氏　平は良い所ですよ、電氣會社は銀行の次の樣なもので割りの良いものでありません、停電に際しても大分攻擊されてね、停電すると會社は隨分儲かるでせう等と申しますが儲かる所じやない損をしますよ停電に際し工夫が汗みどろになつて應急處置に當る時なんか御覽になつたら多少理解して呉れても然るべきですが會社も商賣だからやむを得ぬ、殊に平は比較的石炭を仕ふので電線が痛みますよ、櫻花廣告燈も初めましたこれも會社で大分奉仕するのでね』と永倉氏と申せば知らぬ人も多からふが東電平營業所長として武田氏の後任の人橋本鐵吉氏の實弟で慶應出身まだ〳〵世慣れぬ事は事實らしく學生な學者肌の人かも知れぬ然し初印象の惡くない人である。

平小鐵道通過地は

内郷村から鹿島玉川の山間部を經て小名濱へ

鐵路の延線五哩

小名濱港築港の國庫補助も貴衆兩院を通過して小名濱町は大分活氣と祝賀氣分に漲つて居る、加ひて平小鐵道は近年着手は既定の事、その路線の通過地域につき問題になつて居るが豐間や江名の海岸を迂廻せぬ事はこれ又既定の事は素人でも判り切つて居る事、平小間五哩で一哩、九萬圓の工事費たる事、何でも確實なる所よりの情報によれば揚土臺トンネルを西に出て綴に行かず小島か金谷の山丘を貫通して鹿島の西部、玉川小名濱の明神町裏に停車場が出來、『勿論海岸への引込み線はあるだらふが』途中停車場ないとの事である、政府の主眼は平と小名濱を出來得るべく最距離に接近さするを軍用が目的なのであらふと言はれて居り、短距離にせば回數も多くなるといふ理だからこれが首肯される事になる、又平の東部より鹿島村に行くとすれば洪水の關係上大反對もあり長き鐵橋を架けねばならぬ事になるから小島より進むのが至當であらふ兎に角鹿島、玉川ともあまり水田を潰さぬ樣にして山間原野を通して貰ひたいとは地方民の切望である。

話耳目

本紙一面にものした『動中靜觀』中もの足りぬ點あるから今少し横山君に言はねばならぬ事が出來た、筆者は横山君が憤慨してあの如き毒筆を以つて筆者に當つて來た事は單に時事問題に平館のニユースを例に擧げたからとのみ解釋して居つた。然るに聞く所に依ると『伊藤特高主任健在なりや云々の記事で何か穿き違ひして公衆の前で『ありや民報の山田君が書かせたものだヨシそれならおれにも覺悟がある』と親分氣取りの大見得を切つたそうである、横山君大人げがない、そう早まるべからず、山田磐麿氏とは約二ケ月も近來會つて居らず去る二十一日會見した其間よしんば逗つたにせよ、山田氏は伊藤氏と君とどういふ關係あるか知らず前號の〇〇衆園の力を借りて寄附を强要して遊興する云々は君等の事を指したのではない寄附を强要して未廣での〔ん〕だ集團を暗示したのだ何も磐城セメント問題で四ッ倉町柏家の件等には明示して居らぬ、繰り返して言ふがそう感違ひされては筆者が迷惑する許りでなく山田氏に氣の毒である、又相互に筆を持つ同業に書かせたとか何とかは筆者を侮辱するも甚しいではないか、君等にこんな問題あるか知らぬが山田氏はそんなつまらぬ問題にいち〳〵騷ぎ立てる程小さな人物ではあるまい、寧ろそんな問題なら不平居士の横山に任しておけ、と例の超然主義を採るかも知れぬ。尤も山田氏は君の樣な偉い人物に拘泥してゐるひまがないと思ふかも知れぬ。兎に角陰でばかり大見得を切らずに、ちつとは山田氏の面前で一騎打ちでもしたらどう山田氏は望んで居るかも知れぬまさか柔道初段級の腕前に恐れる君でもあるまい至る處でガラにも無い大見得を切る君の事を、見る人が見たなら吹き出すのも當然、まア御愛與ならそれでよい、人の事を言ふ前に手前の方を氣を付け給へ、そういつまで君等に惡口言はれて沈默する筆者ではない、親分なら親分らしく仕給へ。人を眼下に見下せば自然君の品が下るのだ、人を惡口し侮辱せば結果はどうか、一言山田氏のために明にし筆者の立場を説いて置く。

（眞　立）

課外講座

見かけ倒しといふ事

カボチャは

外見頗る豪放

然し食ひばカラ甘い

カボチャと云ふ果物は外見は極めて雄大、豪放の氣風が溢れてゐる、然し食べて見るとカラ甘い、これを名づけて見かけだをしといふそろ〳〵春風駘蕩のシーズン今年は陽氣の加減かカボチャの初物はまだ早いが大分脳病患者が多いといふ事である春氣發動の季御用心肝要。

平鍛冶町の火防宣傳

平鍛冶町火防組では左の如き注意書を全町内に配布して火氣の注意を促して居る

火の用心號

『戊辰會發行』

靜かなる深夜、溫き家庭に圓かなる夢路をたどる時、『突如チャン〳〵〳〵と早鐘の音』心臟をエグル漂笛の響、一瞬にして平和の巷は阿鼻叫喚の地と化す『原因は油斷大敵から起る『火』だ

鹿島村大火（二月廿六日）

四十棟　燒失

山林三百餘町步

茨城縣下に此の世ながらの焦熱地獄を現出せる。

石岡町の大火

壹千三百戸全燒

罹災者六千名

損害五百萬圓餘

遺憾ながら當町内にも失火あり幸ひ小火に終りましたが再度かゝる失敗を操返さざる樣におたがいに注意致しませう。

『雨は天から…涙は目から火事は其身の油斷から』

新川柳

三月八日小集席上吟（鶴屋旅館にて）

佐瀬劍珍坊先生選

題　丼

佳章

丼に鼻がつかへる出代る日　雅山

喝采を浴びて丼よく廻り　東天紅

丼を落したらしい今の音　向天峰

鰻丼を押頂いて母は食べ　東天紅

子の殘り手傳つてやる親子丼　あきら

丼がそつくりしてる呑める口　雅山

秀逸

丼がまだ屆かない借電話　新平

軸

丼が屆いて灘車に乘りおくれ　劍珍坊

席題　的　劍珍坊先生選

的屋今日飲むことにする雨となり　新平

目的もなく出た我を月が知る　雅山

金的のまわりへ犇と矢がさゝり　同

子を連れた同志射的へ錢が減り　新平

目的のあつて二男の自暴自棄　東天紅

中折と素的落花の船の中　雅山

秀逸

目的にまだ程遠い貯金帳　東天紅

軸

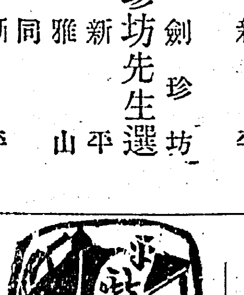
自發的直な署長にして歸し　劍珍坊

動的と靜的酒の量がいり　同

時勢に順應して平町の旅館料亭の兼業を廢すべし

この聲が漲つて來た

旅人が平へ宿つて意外と醜惡に驚くのは旅館に藝妓の入いる事であると異口同音に申して居る、實際旅行に疲れた人々が一夜の安靜をしようとするに隣り室で十二時過ぎ騷がれては安眠も出來得まい、平の事情を知らぬ旅人は、うるさきため甲の宿屋乙、丙丁と轉宿したといふ事を聞いて居る、市制も布かれんとする大平町建設の折であるからそろ〳〵宿屋料理店を分立すべきであるとの聲が漲つて來た樣である、然し過度期の營業を歡迎して居る人々もあるから仕方がないとしても心ある人々は現在の制度を不可思議とするは當然である。



◆竹の家へ今度出たは文奴、と申す東京下り本名文子と稱し京都東山邊りで左褄を取つた事もあるとかホンが得手とある喉の自慢の醉人は一度は呼んで見る事だ、月謝は文ちやんの方から拂ふ相だよ。◆橘家のちやら子、例の齒欠けは見事に總金齒をヒカらせて女振りが層一層上つた、さぞその邊若い地主さんは會心の笑を漏して居るだらうとの事である。◆例の座り美人で名ありし仲家の小清はハーさんより何百圓の差引とか何とかでミーさんが仲に入つてごうのこうのと問題になつて居つた樣だが兎に角數百金懷ろに立つたは偉いものスゴい事はさすが小清である。◆湯本蔦家へ仙臺から勝利と名乘つて出た妓は元平久本で桃千代といふ。◆三島家の菊千代、竹駒、稻荷樣への參詣は大した御利益天利數以上でせう。◆今度開花へ出た新妓は丸子と名乘る若い所そろ〳〵花見時も近くなり花見藝者が增す事であらうテ。

流下藥（秘密に讓ります　無効返金　金四圓　頭痛用金七圓）
月やく止まり心配の人は安心確實無害に流下し目的を達する當局發賣の强烈特殊藥『カブギン』を用ひなさい。
藥店の如く無責任藥は賣らぬ
高き醫療より安い藥劑師へ
特に平田町宇佐美藥局に
醫藥分業の標語募集
一等五圓貯蓄債券（以下略ス）四月三十日迄
用紙ハガキ
塗料大勉强　クレオソート（一、二〇）　コールタール（一、三〇）

祝平新報之發展
玉川村長　永井億彌
平製氷株式會社
藥種商　小野勇壽郎　湯本町
湯本信用無盡株式會社　電話四七番
酒類販賣　小松茂　平南町
材木商　菅野源重　澤渡村
土木建築請負業　只野忠康　平南町
履物商　三井常松　平町二丁目　電話一五六番
好間行　三井自動車部　平町二丁目谷口通り　電話呼出八番
縣會議員　山崎吉平　飯野村
磐越銀行　中野甲藏
瀧澤俊平
牛乳商　岡田千藏　平鎌田町
平町會議員　佐藤岩次郎　平鎌田町